

県立長崎図書館だより

いしだたみ

No. 138

2002年3月



- 長崎県立長崎図書館創立90周年の歩み
- 県立長崎図書館所蔵の20世紀初頭の資料の紹介
- 郷土資料紹介
- 図書館紹介
- 平成14年度行事予定

平成15年度全国高等学校総合体育大会



「長崎県立長崎図書館創立90周年の歩み」

県立長崎図書館は明治45（1912）年6月1日に開館し、今年で創立90周年を迎えます。開館当初は、市内の新橋町にあり、当時の蔵書は、2,400冊でした。

県立図書館が現在の場所に移転したのは、大正4年のことで、以前からあった県会議院兼迎賓館（交親館）を図書館として改修築した後、昭和34年までの45年間使用されました。

昭和20年には、原爆により、本館西側が大破、約1,500冊もの図書資料が罹災にあったほか、混乱の中、市内県下に貸出中の図書約1万冊が失われました。

昭和35年（1960）年に、長崎国際文化センター建設事業の一環として、新館が落成（鉄骨・鉄筋コンクリート3階建、書庫4層）し、その8年後に、4階部分を増築して、史料館（今の郷土課）が開館しました。その後、随時建物の増築や補修を行いながら、現在に至っています。



（旧館風景）



（旧館閲覧室）

略 年 譜

- | | |
|-------------|--|
| 明治27年(1894) | 安中半三郎、香月薫平らが長崎文庫を創設 |
| ✧ 42年(1909) | 長崎県回覧文庫を設立。 |
| ✧ 45年(1912) | 回覧文庫を基として、6月1日県立長崎図書館を創設、市内新橋町に開館。 |
| 大正4年(1915) | 長崎市西山町の交親館を図書館として改修築し、県立図書館を移転。 |
| 昭和20年(1945) | 8月9日に投下された原子爆弾により、本館庁舎西側が破壊される。
11月書庫内で閲覧業務を再開する。 |
| ✧ 35年(1960) | 長崎国際文化センター建設事業の一環として、新館が落成。 |
| ✧ 43年(1968) | 明治百年を記念して、図書館4階を増築し史料館（今の郷土課）を開館。 |
| ✧ 63年(1988) | 電算システム始動。 |
| 平成元年(1989) | 市町村とのオンライン開始。 |
| ✧ 7年(1995) | 新書庫増築（書庫4層）。 |
| ✧ 11年(1999) | インターネットによる蔵書検索開始。 |

近年の生涯学習社会・高度情報化社会の中で、資料情報センターとして図書館の果たす役割は年々大きくなっております。90周年を迎え、今後、県立図書館の一層の整備・充実をはかるとともに、利用者の皆様のお役に立てる図書館を目指して、職員一同努めて参りますので、今後とも県立長崎図書館をよろしく願いいたします。

歴史文化博物館（仮称）建設に伴うお知らせ

歴史文化博物館（仮称）建設に伴い、本年4月から、第2駐車場（旧知事公舎）の使用ができなくなります。利用者の皆様には大変ご迷惑おかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

県立長崎図書館所蔵20世紀初頭の資料の紹介 (風俗習慣・民俗学・民族学)

前号に引き続き、県立図書館所蔵の20世紀初頭の資料（郷土資料を除く）の紹介をしたいと思います。今回は、明治36年から昭和元年までの「風俗習慣・民俗学・民族学」関係の資料についてご紹介をしています。本館の所蔵する昔の貴重な資料を利用者の皆様にご活用いただければと思います。

書名	著者名	出版社	出版年	備考
日本風俗史	坂本健一	博文館	明治36年	日本の風習やしきたりの移り変わり
近世世相史	齋藤隆三	博文館	明治42年	近世を中心とした世の中のありさま
近世風俗志	喜田川守貞	東京出版	大正2年	近世の衣食住・社会生活について
趣味の伝説	五十嵐力	二松堂	大正2年	日本各地に伝わる神話・伝説
日本伝説集	高木敏雄	郷土研究社	大正2年	日本に古くから伝わる伝説・昔話
日本風俗図絵	黒川真道	日本風俗図絵刊行会	大正3年	日本各地の風習やしきたり
婦人礼法	下田歌子	実業之日本社	大正6年	女性の礼儀作法について
日本傳説叢書	藤沢衛彦	日本伝説刊行会	大正6年	日本各地に伝わる神話・伝説
国民性伝説	原正男	実業之日本社	大正6年	国民性を表明する神話・伝説・史話
世界の衣食住	櫻井彦一郎	丁未出版社	大正7年	世界の国々における衣食住の歴史
日本結髪史	稲葉小千	春陽堂	大正7年	日本人の髪型の移り変わり
日本風俗志	加藤熊一郎	大鑑閣	大正8年	全3巻。日本各地の風俗・習慣・信仰など
南島説話	佐野真興英	郷土研究社	大正11年	琉球に古くから伝わる説話を紹介
祭礼世間	柳田国男	郷土研究社	大正11年	人生儀礼や年中行事についての研究
日本風俗沿革図説	江馬務	山本文華堂	大正11年	日本各地の風習やしきたり
日本の民家	今和次郎	仙台	大正11年	地形や気候に応じた地方の家々について
祝祭日と習俗	関根正直	目黒書店	大正11年	日本の年中行事にみる日本人の国民性
郷土誌論	柳田国男	郷土研究社	大正12年	村を中心とした社会生活について
日本喫茶史要	好川海堂	喫茶の友社	大正12年	菓子や茶など日本の喫茶の歴史
日本国民伝説	高木敏雄	敬文館書店	大正12年	神話を中心とした伝説・昔話について
食物史	宇都宮黒龍	雄山閣出版	大正13年	食物とその材料・調理法の昔と今
日本服飾史	桜井秀	雄山閣	大正13年	歴史にみる衣服の形式・生い立ち・発展
太平洋民族誌	松岡静雄	京都	大正14年	太平洋の島々で暮らす人々の生活文化
煙草礼讃	下田将美	郊外社	大正14年	一服の煙草による慰めと心の安らぎ
民間風俗年間行事	広谷雄太郎	国書刊行会	大正14年	年中行事の歴史や意義について
現代作法精義	甲斐久子	平凡社	大正14年	現代人のエチケットやマナーについて
日本古俗誌	松岡静雄	刀江書院	大正15年	考古学における衣食住や生産・生業
日本民族志	中山太郎	総業社書店	大正15年	成人・婚礼・産育といった人生儀礼
南方隨筆	南方熊楠	京都	昭和元年	各地に伝わる信仰伝説について
南方閑話	南方熊楠	坂本書店出版部	昭和元年	各地に伝わる信仰伝説について

◎日本風俗志（大正8年）

日本各地の風俗・習慣・信仰などを全3巻に分けて紹介。長崎名物として「風俗上長崎の名物として算せらるるものは3月の紙鳶揚げと7月の盃盆と10月の諏訪祭との3である……10月の7日より9日まで3日間行われる諏訪神社の大祭は長崎三大名物中の随一といはるる賑ひにて長崎人はこれをクンチ（供日）と称し全市80余町を7区に分ちて毎年11・2町宛當番町として7年目に1回之に當ることとし……」と長崎くんちが紹介されている。



◎食物史（大正13年）

太古から、大正時代までの食物とその材料、調理法などを紹介。第8章江戸時代・酒類のところでは、「飲酒して、泥酔になっている者をこの頃は『よひたんぼ』と称した、2・3日経ても醒めない者は二日酔などと名付けた。時によると酒客相会して酒量を戦はせる様なこともあった。……文化14年両国柳橋で大酒大食の会があった。酒組・菓子組・飯連・蕎麦組などに分かれて暴飲暴食を競うたことがある。斯様な時には、1人で3升入りの盃で酒を6杯半傾け、更に、水を17杯呑んだという様な豪の者もあった。飯も68碗と醤油2合を平らげたという者もあった。蕎麦63杯食し尽くしたという大食家もあった」と江戸時代のお酒にまつわる逸話が紹介されている。

おらんだ 紅毛蕃の食事をなすや箸を用ひずして ホ コ ハ ア カ サ ジ 三又鑽快刀子銀匕の三器を以す

— 長崎旅日記・長崎紀行(15)—

〈迎陽亭あれこれ〉

長崎を代表する料亭迎陽亭は、文化元年（1804）に江戸からきた料理人杉山藤五郎によって創始され、当初は東語楼と称して出来大工町河岸にあったといひます。長崎奉行遠山景晋の恩顧を受けて奉行所及び諸藩の御用を勤め、前後して上筑後町に移り、迎陽亭と改称したのですが、現在も庭には遠山左衛門尉の名を刻んだ石灯籠が残っています。この地は彦山方面から昇ってくる朝日を迎える、まさに「迎陽」亭でありました。

長崎奉行が外国使節や佐賀・福岡などの諸藩主と応接し、午餐を供するような場合、史料で押さえたわけではありませんが、それを迎陽亭などの料亭が請け負ったのではないのでしょうか。

例えばロシア使節プチャーチン一行は、嘉永六年の十二月から翌年正月にかけて西役所で一度、立山役所で四度程食事をしています。二汁五菜とか三汁七菜とかの献立について簡単ですが次のような史料がありました。江戸から儒者古賀謹一郎に随行してきた米沢藩士窪田茂遂の『長崎日記』に「御料理被成下候図」とあり、続けて「異人ハ箸ニて食事不致候故、箸を無地攫ニして喰、口取・乾物類ハ手ニ而喰候、酒食共随分旨く、露もの杯ハ替候て喰候よし」と、生々しく箸の使い方や手で食べたことなどを記しています。この図は、十二月十四日西役所書院においてプチャーチンや川路・筒井らが食した三汁七菜ではなく、対面所・使者之間の襖をはずし、曲録・飯台を置いて随行士官たちに振る舞った二汁五菜ではないかと思われます。もっと詳しい献立については、『幕末外国関係文書』のプチャーチンの項を参照してください。



さて、平松儀右衛門が会食したときの主人は迎陽亭二代目村七（村助）だったようで、金沢から遊びに来た加賀藩御用絵師梅田九栄一行も迎陽亭を訪れたことを書き残していますし、有名・無名を問わず多くの人が長崎の味を迎陽亭に求めたといえるでしょう。

明治になって三代目杉山吉太郎のとき、聖福寺塔頭静操庵の宅址、唐通事頼川氏の宅地を購入し、一流料亭として益々の充実をみました。来遊著名人の代表として夏目漱石を。ロンドン留学に向かう漱石は明治三十三年九月十一日、汽船プロイセン号を降りて長崎県庁に書記官馬淵鋭太郎、参事官鈴木兼次郎を訪ね、その後迎陽亭に行つて入浴、午餐をとったあと、午後四時半馬淵・鈴木両氏に送られて帰船、船は上海へ向けて出航しました。ついでに留学を終

図書館紹介

■福江市立図書館

福江市立図書館は、旧ホテル翠仙閣を改築して平成3年1月にオープンしました。

利用者の利便の向上を図るために、平成4年6月より県立長崎図書館とのオンラインを結び、13年1月に利用者インターネット端末を設置、10月には図書館情報検索システムを導入しました。

平成8年からは移動図書館車ラブリートバス号を運行し、周辺地域をはじめ離島（久賀島）や施設の巡回も行なっております。

図書館は、外観が城の形をしたユニークな建物で、福江港や中心市街地からも近く、近隣には五島観光歴史資料館、福江文化会館、五島高校、五島家の庭園などがあり福江市の文化ゾーンとして多くの市民の憩いの場になっています。

図書館の活動としては、夏休みに市内小学6年生を対象にパソコンを扱った貸出、返却処理を行なうこともボランティア活動、長崎県読書感想文課題図書等を対象とした市内読書感想発表会を実施しています。

また、市内小学校巡回こども絵画展では、各学校持ち回りで学期毎に選出した絵画6点を展示しています。毎月第1、3土曜日には、読み聞かせボランティアグループ「おはなしもこもこ」による、幼児、小学校低学年を対象とした絵本の読み聞かせや、季節毎の催物（夏休みチ



ビッコ工作教室、クリスマス会等）も行なっています。

特に平成12年度は、2000年子ど

も読書年ということで、多くの関係者の協力のもと福江市立図書館独自で「福江市立図書館すいせん絵本ベスト100」を500部発行し関係機関へ配布しました。さらに図書館と地区公民館にはベスト100コーナーを設け市民へのピーアールを行ない読書の推進をすすめています。

開館して10年が経過しましたが、当初19,838冊だった蔵書数は現在約72,000冊に増え、大変手狭になってきています。しかも既存のホテルを改築した図書館本体として建てたものでないため、いろいろな面で利用しづらいことが出てきています。

また、離島である福江市は過疎化が進み基幹産業が低迷する中、交流人口の増大が福江市発展のための重要なキーワードになっています。

福江市では図書館を核とする地域振興の実現を考慮し福江市立図書館建設計画協議会を設置し、さまざまな角度から図書館の建て替えを現在議論しています。図書館が地域振興の柱になってくる時代がきていると確信できます。福江市立図書館は、次の3点をこれからの図書館像と位置づけ職員一同励みたいと思います。

1. 対外的に吸引力がある図書館
2. 市民が自由に滞在できる図書館
3. 五島、福江関係郷土資料が充実した図書館



平成14年度県立長崎図書館行事予定

- | | | | |
|----|---|----------------|---|
| 5月 | 第1回長崎県公共図書館等協議会理事会及び総会（15日本館）
県地方史研究会役員会、総会及び第1回研究発表会（25日本館） | 蔵書点検（30～10/11） | |
| 6月 | 県読書グループ連絡協議会第1回理事会、総会及び文化講演会（3日本館） | 11月 | 県図書館活動推進大会（未定）
県読書グループ連絡協議会史跡見学（15日 未定）
県地方史研究会第2回研究発表会（17日 三和町） |
| 7月 | 古文書解説講演会〔初級〕（22日 本館、23日 佐世保市）
古文書解説講習会〔中級〕（30～31日 本館） | 12月 | 第2回長崎県公共図書館等協議会理事会（20日 本館） |
| 8月 | 古文書解説講習会〔中級〕（1～2日 佐世保市） | 2月 | こども大会（21日 本館）
第2回県立長崎図書館協議会（未定 長崎市）
90周年記念式典（未定 本館）
県読書グループ連絡協議会第2回理事会（21日 未定） |
| 9月 | 第1回長崎県立長崎図書館協議会（未定 長崎市） | | |

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号／印刷（株）昭和堂 長崎市栄町6-23昭和堂ビル
I S S N 1344-5235 ホームページアドレス www.lib.pref.nagasaki.jp

R100 再生紙を使用しております